

泌尿器科

1) 診療科紹介

- 現在の泌尿器科は、アメリカ医学の流れを汲んで、外科から分科独立した後腹膜臓器ならび男性生殖器を取り扱う外科の一専門分野という位置づけになっています。ただ、他の外科分野と異なり、診断を取り扱う対応する内科が存在せず、診断から治療、フォローアップまで、継続して医療を行うのが一つの特色です。対象疾患は全年齢層に広がりますが、比較的高齢の患者が多く、人口の高齢化に合わせて、泌尿器科の需要が増加、十分な数の泌尿器科医が得られていない状況です。
- 当科では、**1985**年、いち早く体外衝撃波結石破砕装置を導入し、以来尿路結石治療の屈指の病院として数多くの患者さんを治療してきました。**20**年以上経った現在、多くの病院に体外衝撃波結石破砕装置が導入されているにもかかわらず、多くの患者さんや泌尿器科専門医をはじめとする多くの医師に支持され、年間**1000**名前後の治療を行っています。当然ながら、**PNL**や**TUL**といった尿路結石の内視鏡手術も年間**100**件と多く、膀胱や前立腺手術も含めると尿路内視鏡手術は年間**200**件前後にのびります。
- また、低侵襲治療の一環として、体腔鏡手術（いわゆる腹腔鏡手術）も、泌尿器科に臨床応用された早期から取り組んでいます。**2004**年には日本泌尿器科学会の腹腔鏡手術技術認定をいち早く取得し、現在では前立腺のみならず膀胱に至るまで体腔鏡で手術を行っています。例えば、腎・副腎の手術は**2000**年から取り組んでおり、泌尿器科腹腔鏡手術技術認定に必要な**20**例以上の腎・副腎の体腔鏡手術を、当科では**1**年で行うことができます。また、前立腺全摘術にも取り組んでおり、**2006**年には京都市中病院では稀な、腹腔鏡下前立腺全摘術の保険適応を認められた病院です。全体の手術件数も毎年**15%**前後増え、**2006**年度より**1**人スタッフが増えましたこともあり、約**350**件の手術を行っています。
- 泌尿器科学には、いくつかの大きな柱があります。当科では、現在、尿路結石症と尿路悪性腫瘍を主な柱として、尿路感染症、下部尿路機能障害に力を注いでおり、診療のみならず臨床研究も平行して行っています。地域の基幹病院として、他のジャンル、婦人泌尿器科や男性不妊症などの需要にも応えて行きたいのですが、そのためにはより多くの若い先生方に泌尿器科医を目指していただき、当科、当院、当グループに力を貸していただきたいと思います。ともかく豊富な症例を治療していく過程を、**2-3**人の医師がプロとしてこなしていくのみでは、あまりにも勿体なく、是非若い先生方の研修に役立てていただければと思います。

2) 泌尿器科後期研修の目標

A) 一般目標

- 泌尿器科専門医として、患者、泌尿器科医、パラメディカル、他診療科医師から信頼されうる知識と経験、技術、姿勢を醸成する。

B) 行動目標

- 患者から得た情報と医師及び泌尿器科専門医としての知識を基に、論理的に検査プランを作成し、適切な診断及び臨床経過の予想を行う。治療の選択肢とそれぞれの優劣を、個々の患者の状態に合わせて修飾を論理的に行ない、記述・説明できる。
- 患者の希望する或いは納得できる治療プランを作成し、高い質を維持して治療を実行でき、経過を適切に記載できる。
- 稀ではない泌尿器科疾患について、十分経験し、症状、診断法、臨床経過、治療法などについて、一般的なコンセンサスと自らの経験を対比、論述できる。
- 泌尿器科専門医として、経験できないかも知れない頻度の低い疾患・病状、検査法、治療法について、文献や学会などで十分理解し、臨床能力を獲得する。
- 泌尿器科における手技に精通し、比較的難度の高い手技も行える技術を身につける。
- 泌尿器科疾患の特異性を理解し、患者の精神状態、価値観、理解力に配慮して、適切な態度、言葉で、十分説明を行える。

C) 学習方略

- 実地診療に際し、常に教科書に一般論、文献にエビデンスをもとめ、患者個人個人について、適切な判断をし、その論拠を記載・説明する。
- 泌尿器科入院患者を担当し、臨床情報の収集、それに関連する文献の理解、診断・治療プランの作成する。
- 上記を含め、すべての医療行為に対し、事前または事後に指導医に報告し、情報の不足をチェックされ補充、更にエビデンスや論理性をチェックされ指導を受ける。
- 比較的容易な手技・手術を独自の判断の基、単独で行い、適宜報告する
- 一般的な泌尿器科的手技・手術を指導医の基で行う。
- 専門性の高い処置や検査、極めて難度の高い手術などを補助する。
- 症例や臨床データをまとめ、学会や研究会に参加し、発表する。
- 臨床データをまとめ、論文として学術誌に受理される。
- (当科で経験しにくい症例については、京都大学泌尿器科及びその同門会である大文字会が主催する研修コースに参加して、大学または大学関連病院にて経験する。)

D) 評価方法

- 臨床医としての人と接する態度や積極性、協調性などの姿勢。安全性や社会的要求に対する理解はどうか？

- 泌尿器科医としての知識が十分身についているか
- カルテの記載や症例の提示において、過不足なくまた論理性が一貫しているか？
- どの程度の処置や手術を十分理解し、安全にスムーズに行えるか？？
- 専門用語や所見の判断が正確か？
- 学会活動を意欲的に行い、十分評価されているか？
- 論文をアクセプトされているか？

を、常時評価され、経時的に変化を検討された上で、形成的により高い臨床目標を設定される。

研修の終了までに、日本泌尿器学会の専門医試験および院内研修管理委員会または京都大学同門会である大文字会にて評価が行われる。

3) 大学医局との関係

- 京都大学泌尿器科学教室の関連施設である

4) 将来の進路

- 京都大学泌尿器科の同門会である大文字会が主催する研修コースでは、地域の基幹病院での勤務が斡旋され、また、場合により同大学院への進学も可能である。
- 上記に関わらず、当科で十分な専門研修を受けて、十分な能力があると認められれば、当院或いは関連病院でスタッフとして勤務できる。